

尾ノ上の風

第11号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

充実の秋を迎えて ～見学旅行、音楽会に向けて～

10月下旬を迎え、教科の学習とともに生活科や社会科での見学旅行が計画されています。すでに、16日には、1年生は、阿蘇ミルク牧場に見学、体験学習に出かけました。（1年1組は、インフルエンザで学級閉鎖になったため、今月24日に実施）4年生は山鹿の八千代座に見学旅行に出かけて学習を深めて来ました。体験を通じた学習に加え、タブレットを持参して自分たちで写真や動画も撮影したり、学校に戻ってからのまとめに活用したりと、一段と子どもたちは知識・理解を深めることができることが期待されます。今後も6年生の修学旅行を始めとして、他の学年の子どもたちも見学旅行を楽しみにしているようです。

また、11月の校内音楽会、保護者の皆様へ公開する尾ノ上ミニコンサートに向けても練習に熱が入って参りました。全校児童に見てもらいたい、保護者の皆様に見てもらいたいという気持ちがあるからでしょう、難しい曲に苦戦しながらも繰り返し練習に取り組み、次第に出来上がってきつつあるようです。ぜひ、11月9日（土）には、本校体育館までお運びください。

5年生が中庭に植えていた稲穂も大きくなり、先日稲刈りを済ませて収穫の秋を体験しました。ひとつひとつに取り組み、充実の10月を過ごして大きな成長を期待したいと思います。

早くもインフルエンザ流行の脅威

上の記事でも触れましたが、先週インフルエンザによる学級閉鎖を行いました。校医の先生ともお話ししましたが、非常に早い時期での流行であり、換気や手洗いの励行に気を付けてほしいと思います。エアコンを使うようになると、換気をしなくなる傾向にあるので、本校職員にも確認をしたところです。予防注射も接種できるそうですが、絶対にかからないということではなく、接種していると重症化が避けられる効果が期待できるそうです。修学旅行や見学旅行、音楽会なども控えているので、何とか罹患せずに元気で乗り切ってほしいと祈るばかりです。

来年度新入学児童の健康診断 終わる

来年4月に入学予定の児童を対象とした就学時健康診断を23日（水）に実施しました。内科、眼科、歯科の校医の先生方にも来ていただいたの検診です。

5年生が、就学児童の子どもたちをやさしく手を引いて、校舎内に設けられた検診場所を案内する姿は、とても微笑ましく頼もしく感じました。この健康診断は、4月から1年生のお世話係として接してく5年生にとって、最上級生として尾ノ上小を引っ張っていく気持ちも高まり自覚が芽生えていく機会となります。

こうやって少しずつ、新年度に向けての準備も進んでおります。

こんにちは！お仕事&授業拝見 13 ひまわり学級 上坂先生

上坂先生の算数の授業を参観しました。先生の指導の特徴は、子どもたち一人一人の表情に、反応を返ししながら、さらにつぶやきを拾って授業に参加を促しているということです。

この日の参観は5時間目。午前中に家庭科の調理実習があったためか、午後の活動になると子ども達はかなり疲れているようでした。5年算数で、何倍になるかを考える授業です。教科書をいきなり開かせるのではなく、上坂先生はヘチマの写真を取り出しました。子どもたちは、それを見ていろいろつぶやきます。そのつぶやきをつないで、今日の問題は、ツルの長さを比べる場面であることを伝えました。

問題では、裏に紙テープが折りたたんで入れてある3人の人物のイラストを取り出し、引き伸ばすとスルスルとのびていくような教具が作られていました。それぞれのヘチマのツルの長さがどれだけあるかということの説明し、3人が比べていると言う場面状況をイメージ化させていきました。

この教具に子どもたちは反応して発言が増えました。先生は子どもの発言を聞きながら、楽しく反応して見せ、子どもたちの集中力が途切れないように、一生懸命に問題へ向かわせようとしていました。先生は、いろいろ問うのですが反応がないとみると、関係図の説明に切り替えました。割り算の式ができれば、割り算の筆算の手順の教え方は、実にうまくされます。例えば、『7.2cmを「私を分けてください」と言って家の中へ入ります』と説明しながら筆算を書いて見せました。手順を子どもに分かりやすい言葉に置き換えて、印象づけて指導しておられます。説明の言葉ひとつとっても、特別支援学級では、イメージしやすい工夫が必要だと感じられた1時間でした。



問題の場面をイメージしやすい手作りの教具



上坂 智沙 (うえさかちさ)先生 尾ノ上小8年目

【上坂先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

小学校3・4年の時の担任の先生が、よく遊んでくれて、授業も面白かったのです。いつか、その先生と一緒に仕事をしたいなあと思っていました。アルバイトも個別指導の塾講師をやって、一人一人と関わるおもしろさを体感したからです。

こんにちは！お仕事&授業拝見 14 理科専科 林田先生編



子どもたちの間を回って指導する林田先生(上) 発言する友達の方を注目して話を聞く5年生の様子(下)

理科専科の林田先生の理科の授業を見せていただきました。先生の指導は、①「聞くこと」を根気強く繰り返し指導をされていること、②常に児童への目配りと机間指導で、実験などを安全に行う学習態度が徹底されていること、③NHKのテレビ動画クリップを効果的に活用していること、④理科的な板書を工夫していることを感じた授業でした。

先生は、授業のはじめにインゲン豆の成長の動画を途中で止めて子どもに質問し、興味や疑問を持たせてから続きを見せるなど、見せ方がとてもうまいのです。

グループで話し合わせるときには、グループ間を回り、腰を下ろして子どもと視線を合わせたり、声かけをしたりと動きまわっておられました。子どもが発言するときには、全員が発表者を向いているか、発表者の後ろや横、反対側と位置を変えて立られています。学級全体を常に視野に入れて、授業全体を通して望ましい聞き方を繰り返し指導しておられました。子どもの発言には、必ず短く褒めたり頷いたりして反応を返され、すべてのグループに発表させられます。ときには、「短く切って話すよと聞きやすいよ」と発表の仕方もアドバイスしておられました。しかし、グループできちんと話し合おうとせずに、発表で言えなかった時には、すぐに座らせずに、きちんと責任を果たすことの大切さもアドバイスされています。そして、発言させたことも、課題、予想、実験と見やすく黒板にまとめていかれました。明るい雰囲気をもって、根気よく日々の積み重ねを大切にされていることをとても強く感じる事ができた授業でした。



林田 幸一 (はやしだこういち)先生 尾ノ上小2年目

【林田先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

人と関わったり、人とともに作りあげたりすることが好きでした。人に教えることに興味をもっていただいているように思います。子どものことが好きですし、接していてとても楽しいですね。だから、この仕事に就いたのだと思います。